

【熊本県賞】

水とくせ毛との毎日

熊本県 県立八代中学校 二年 元山 実乃莉

朝、母が私を起こす声を聞いてベッドから体を起こす。自分の頭に手をやり、いやな予感と向き合う。ふわふわと波状で不揃いな私の髪は小さい頃から協調性という言葉を知らないようだ。この約十三年間いつもくせ毛と過ごしてきた私には、どうしても相容れない存在がある。それは水、さらに言えば熱を持った水蒸気だ。くせ毛の人なら分かると思うが、これらはうねる髪にとつて宿敵となる。梅雨の季節、風呂上がり、プールの授業などいやというほど水と対面してきたが、どの瞬間も私の気持ちを沈めさせる。さながら何も見えない泥の中にいるようだ。続く毎日の中で水と私の生活が切り離せない事を痛いほど感じる。私の中で水というかべると、一番最初にくせ毛という単語が結びつくほどだ。

プールの授業などの学校生活は水を避ける事が出来ない方がほとんどだ。では、天気はどうかなのか。天気こそ自分ではコントロール出来ないから厄介だ。どうにかして熱くてジメジメした日が無くならないか考えない日はない。

学校で水について考える授業が行われた。

私は地球温暖化をインターネットで調べ、環境省のサイトから次のような事実を知った。

「地球温暖化が進めば、平均気温が高くなるだけでなく、海面が上昇し、さらに熱帯低気圧の強度の増加や集中豪雨の増加など、異常気象が起る確率が高まります。このため、特沿岸域では、高潮や浸水などによる被害の増加が懸念されています。」

雨や曇りの日は無くなるどころか増えるようだ。私が地球温暖化について考えるようになったのはこれがきっかけとなった。遠くの島が沈むことよりも、生き物が住む場所無くなることよりも、天気が悪い日が増えることの方が私に大きな衝撃を与えた。それは自分と身近な事と地球温暖化が深く関わっていると知れたからだと思う。水とくせ毛について悩

みながら地球温暖化について考えることが出来た。

その後私は地球温暖化を食い止めるために何をすればいいのかを調べた。大切なのは、温室効果ガスを出す量を減らす事で、節電をしたり車を使わないようにすると良いそうだ。すぐに挑戦できる節電には、照明のスイッチをこまめに切ったり、お風呂や炊飯器の保温機能をできるだけ使わないようにしたりするなどがある。私はこれから朝にヘアアイロンを長時間使うことのないよう、毎晩早めにドライヤーをすませるようにしたいと思う。

私は今まで、水についてや地球温暖化について深く考えても自分ごとにして危機感を持つ経験がなかった。しかし、思いがけずくせ毛との関係を知って節電を初めるところまで意識を高めることが出来た。色々な問題について意識を高めていく事は思ったよりも簡単なことだったのかもしれない。

水について考えていきながら地球温暖化について危機感を持てたのは自分の中で大きい経験となった。私の身近にある物や事から世の中の問題に目を向けられるようになるためにも、日々の勉強や知識を深める活動に力を入れるようにしたいと思う。このことから、様々な問題と立ち向かうためにも、知識を身近な物事と結びつけていく視点を持つ大事さを学んだ。くせ毛と戦いながら、水と共に生きながらその視点を心にとめて毎日を過ごしていけたらいいと思う。